

心をよつめる

その十八

北九州市内・近郊の寺院の僧侶にお言葉をいただくコーナーです。老後を心豊かに生きるためのヒントとなりますように・・・。



見えるものと見えないもの

「目に見えないものは本当ではない」数年前の私はこう考えていました。

それもそのはず、現代社会では物質的な豊かさや、目に見える経済的な価値観のみが至上のものと、捉えられる場合が多いからです。

一方で、仏教の開祖・お釈迦様は、「目に見えるものは本当ではなく、目に見えないものが本当だよ」とお答えになります。

私は当初、この言葉の真意がわかりませんでした。最近はずいぶんですが、このことに領けるようになりました。

祖父の願い

私には小学五年生まで祖父がおりました。その祖父は厳格で喧嘩早く、不器用な人でした。そんな祖父は初孫であった私を周りが驚くほど可愛がったそうです。

私にとって祖父は「厳しくもカッコいいいいちゃん」。私はそんな祖父が大好きでした。

祖父も晩年には脳梗塞になり、その一年後に往生致しました。それから月日は流れ、十三回忌法事のお斎の折りに、祖母がこんな話を私にしてくれました。

「あなたの名前を決めた時、つけたのはお父さんやけど、じいさんはその時に、『あの子に温かな光がいつも照らして欲しい、そしてあの子もいつか他の誰かを照らしていける太陽のような子になってほしい』ってよく言ったのよ」と。

その言葉を聞いた時、私は照れ臭くも嬉しかった事を今でも覚えています。

それまで私は、あなたの祖父はどんな人かと尋ねられた時、いつも悩んでいました。国鉄で一所懸命に働いていた祖父、いつも遊んでくれていた祖父、息子には厳しいが孫には猛烈に甘い祖父、と、いくつも言葉で形容することは出来ませんが、どれも私と祖父の関係を的確に表現した形容詞ではありませんでした。

ただ今は「温かな光に照らされ、



浄土真宗 本願寺派 妙楽寺

衆徒 岡部 陽照 さん

「定期的にご法座を執り行っています。

お気軽にご参加ください。」



妙楽寺

遠賀郡水巻町吉田東5丁目8-1

TEL 093-201-0300

誰かを照らしていけるような太陽のようになんてほしい」と、私に願いをかけてくれ、私の幸せを願ってくれた祖父でした。」と、明確に言い表すことができます。

「願い」は目には見えないものです。そして、食料や金銭のように、生きる上で即座に役に立つものではありません。しかし、確かに願いは私の生きる力となっています。そして私がいつどこでどのようなにしても、祖父が私にかけてくれたこの願いは変わることはありません。

真実とは

お釈迦様の仰られたことを、私たちは仏教徒は真実のものと捉えます。そして、真実とは時間、空間、対象が変化しても変わることがないものことです。目に見えるものは生滅変化をしていき、日々刻々と姿形を変えていくもの。つまり、目に見えるものの中で真実のもの、本当のものは無いということでしょう。今は亡き祖父の願いは私

の目には見えませんが、私がいつどこでどのようなものになっても、変わらず私を支えてくれるものです。

お釈迦様は、この私たち一人一人に願いをかけて下さった仏様がいらっしゃいますよと教えて下さいました。それは阿弥陀如来という仏様です。その阿弥陀様は「あなたの目で見ればその命は死んで終わっていくように見えるかもしれないが、そうではない。南無阿弥陀仏と我が名を聞いていく、称えていく、そのあなたの命を浄土に生まれさせ仏とする」と、私たち一人一人に願って下さっています。

浄土真宗の肝要とは

自分が見えているものを頼りとするよりも、阿弥陀様がこの私に何を成して下さったのか、私たち一人一人にどんな「願い」をかけたのか、見えない「願い」にどれほどの時間を費やされたのか、ここに思いを致すこと、これが浄土真宗にとって最も大切なことです。